

県立筑波高等学校自己評価表 (重点目標自己評価)

目指す学校像	<p>1 教職員と生徒の信頼関係を深め、心のふれ合う学年、ホームルーム運営を推進し、本校の教育実践目標である「正しい判断」及び「自主的行動」のできる生徒の育成を積極的に推進する学校</p> <p>2 生徒一人ひとりが各教科・科目の学習や類型の適切な選択等をとおして、個性や能力の伸張と確かな学力を身につけることができる学校</p> <p>3 他を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と、たくましく生きるための健康や体力をはぐくむことができる学校</p> <p>4 進路適性理解や就業体験等をとおして職業観・勤労観を育て、一人ひとりの生徒の特性等に応じた進路実現を図るとともに、生涯学習社会の変化に適切に対応できる資質能力（生きる力）をもった有用な社会人を目指し、地域に期待される生徒を育てる学校</p>			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
成 果 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るため、各学年毎に小テストを実施したことにより、生徒の基礎学力の育成を図ることができた。 ・英語検定、漢字検定等の検定を受検することにより学習への意識付けができた。 ・進路希望別の進路ガイダンスや面接指導は、多くの生徒の進路希望実現に有効であった。 ・3年間を通した体系的な進路指導体制が確立しつつある。 ・ピアスの指導に関して、教員の共通理解のもと一斉に指導し、一定の効果がみられた。 ・粘り強く頭髪服装指導をしたことにより制服の着装状態や頭髪が改善した。 	基礎学力の向上及び各種検定試験の奨励による学習意欲の増進	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の能力に応じたきめ細かな個別指導を実施し、放課後等の補充指導を充実させ、成績不振者の減少を図る。 ② 評価方法の見直しや各教科の副教材等の選定及び開発の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起する。また、効果的な授業を実践している教員の指導方法等を全体のものとなるよう校内研修会を充実させる。 ③ 英語検定・漢字検定等の意義等を理解させ、取得のための受験準備の過程で教科学習への意欲を増進し、併せて一般常識テストを活用し、学習の習慣化を図る。 ④ 検定合格の達成感を抱かせるとともに、新たな目標の動機付けを行い、学習成果の向上を図る。 ⑤ 授業填補により授業時数の確保に努め、宿題や小テストを利用して到達度を確認し、家庭学習の動機付けと習慣化を図る。 	B	
	類型の特性を活用した進学可能な学力養成	<ol style="list-style-type: none"> ① 進学コースでの数学は文系・理系に分け、各々の特性を生かした計画的・継続的な進学課外を実施する。 ② 生徒の進路希望に適切に対応した教育課程を編成し、より効果的な進路指導を行う。 ③ 1年次から小論文指導を定期的に行い、推薦入試における論文作成力を養成する。 	B	
	課 題 <ul style="list-style-type: none"> ・さらに生徒の実態に即した指導方法や評価方法の工夫を重ねる必要がある。 ・規範意識の高揚を図り、さらなる指導の効果を上げる必要がある。特に、遅刻者に対する指導を学校全体で行う。 ・問題行動の未然防止に努める。 ・教育課程の研究に取り組み、より生徒に適した編成に取り組む。 ・部活動の活性化を図る。 ・各種委員会活動の充実と活性化を図る。 	職業観・勤労観の育成と充実した進路指導	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の職業観・勤労観の育成を目指し、インターンシップや「進路の手引き」を活用したLHRを計画的に実施する。 ② 自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、卒業生による体験発表等を積極的に行う。 ③ 各大学、短大との連携と各企業への訪問等を積極的に行う。 	B
		基本的生活習慣の育成と部活動の活性化による人材の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① ピアスや化粧の根絶等を目指して、定期検査、校門指導や巡回指導を通して適正な服装容儀指導の充実を図る。 ② 全職員の指導内容に関して、共通理解と共同歩調を基盤とした指導を徹底する。 ③ 読書指導や学校集会を活用し、生徒自身が「人間としての在り方生き方」を自己認識できる指導を行い、生徒の本分を弁えさせるような工夫改善に努める。 ④ 登校時指導、巡回指導、学年集会・全校集会の指導を徹底し、度重なる違反者に対しては保護者との連携を密にするとともに協力を要請し、学校・家庭が一致協力して再発防止に努める。 ⑤ 真摯な部活動を通して責任感や自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができる人材を育成する。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A活動の活性化を図る。 ・ キャリア教育を踏まえた進路指導を進める必要がある。 ・ 学習指導・進路指導・生徒指導の体制を全学年が共通理解を持って、継続して取り組む。 	<p>豊かな心の育成とカウンセリングの充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 読書指導や挨拶運動、密度の濃い学校行事を通して学校への帰属意識を深める。 ② 地域社会の諸団体と連携し、ボランティア活動等の体験的な学習を推進し、豊かな心と規範意識の高揚に努める。 ③ 生徒会活動や特色ある学校行事を通して、郷土を愛する心と愛校心を育成する。 ④ 校舎内外の美化に努め、清楚な学習環境を維持することにより生徒の豊かな情操を育み、環境美化の心を養う。 ⑤ カウンセリングの定期的実施により、問題を抱えている生徒の学校生活への適応を図り、校内研修会の実施と支援体制づくりを推進する。 ⑥ 1年次に「道徳」の授業を通して、生徒の発達段階に応じた人間としての在り方生き方に関する指導を行う。 	<p>B</p>
	<p>家庭・地域社会との連携を図る P T A 活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 卒業生の進路状況や在校生の進路希望状況、学校行事や部活動の成果等を P T A 会報や H P により地元の小中学校等に情報を発信し、特色ある学校づくりについて地域社会の理解を深め協力体制をつくる。 ② 学校評議員等の意見や助言を尊重し、学校教育体制の見直し・再点検を積極的に実施する。 	<p>B</p>

※評価基準： A：目標が十分に達成された B：ある程度成果が見られた C：取り組んだ D：課題を残した E：取り組むことができなかった

県立筑波高等学校自己評価表（各校務分掌自己評価）

※評価基準： A：目標が十分に達成された B：ある程度成果が見られた C：取り組んだ D：課題を残した E：取り組むことができなかった

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題		
教科指導	生徒の実態に即した授業を展開し、基礎学力の向上と学習意欲の喚起をはかる。	習熟度に応じて、個々の生徒の学力を向上させる授業展開の工夫を図る。	B	B ・よくわかる授業づくりを教科を超えたなかで検討していかなければならない。		
		分かる授業を目指して教材の工夫を図るとともに、年間授業計画で計画的指導を図る。生徒が主体的に学習に取り組むことができるように評価と一体化した授業方法を図る。	B			
			B			
教 科	国	基礎学力の向上を図る。	B	B ・漢字力・語彙力などの基礎学力の定着。 ・漢字検定や日本語検定の合格者数の増加。 ・進路実現のための自分の意志や考えを的確に伝えることができる作文・小論文指導。		
		進路に応じた表現指導を強化する。	B			
	語	漢字検定・日本語検定の合格率の向上を目指す。	A			
		古典に関心を持たせるように指導法を研究する。	B			
		基礎学力の向上を図る。	A			
	地理歴史	基礎学力の向上を図る。	B			
		より良い指導法を探求する。	B			
		考查に偏らない総合的な評価に努める。	A			
	公 民	基礎学力の向上を図る。	「現代社会」の用語を漢字で正しく表記できる力を養う。		B	B ・一斉授業だけでなく課題研究を定期的に行わせ、現代社会の課題についての興味や理解を深めさせることが必要。
			新聞記事やテレビ、インターネットから「現代社会」の諸問題を探求させる。		A	
より良い指導法を探求する。		B				
考查に偏らない総合的な評価に努める。		B				
基礎学力の向上を図る。		B				
数 学	基礎学力の向上を図る。	小テストなどを通して基礎学力の定着を図る。特に1年生の授業では、習熟度別に対応する課題を利用して、個々の課題に応じた学力の向上を図る。	B	B ・クラス内での学力差が非常に大きく、一斉授業が困難になってきた。習熟度別などで少人数に分け、基礎学力の定着を図る必要がある。同時に成績上位者の学力向上にも積極的に取り組みたい。		
		小テスト・定期考查の結果をもとに、理解の不十分な生徒には個別指導をする。	B			
		長期休業には基礎学力定着を目的とした課題を出題し、学習の機会をつくる。	B			
	進路に応じた指導を強化する。	A				
	わかる授業への改善に努める。	B				
理 科	基礎的・基本的内容の理解と把握に努める。	ワークノートの利用や、小テストの実施により、学習の理解度を確認する。	B	B 授業に集中できない生徒が目立つ。授業内容を精選し方法を十分協議する必要がある。カラーノートタイプ		
		ノートやプリントの点検を行い、学習内容を把握させ、復習に役立たせる。	B			
	進路に応じた指導を強化する。	B				
	授業に関心を持たせるよ	C				

	うに指導法を研究する。				のワークを有効に活用することができた。
保 体	生徒の実態に応じた指導計画の充実を図る。	運動を通して体力の向上を図り、その技能を高める。 授業を通して、きまりを守って活動する態度を育成する。	B B	B	ジャージに着替えて安全に注意して運動する生徒が増えてきた。運動量を確保することを課題にして授業を展開するようにしていきたい。
	生涯体育に結びつくように努める。	運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わわせることにより、継続的に運動ができる資質・能力を育てる。	A		
	自らの健康を管理し、改善していく力を養う。	視聴覚教材を用いながら、心身の健康について理解させ、意志決定・行動選択などの実践力を高める。	C		
芸 術	実技内容の精選に努める。	興味関心を高めるように教材を精選する。 個々の能力に応じたきめ細やかな指導を工夫する。	B B	B	表現教材に熱心に取り組みような指導に力を入れたい。
	基礎的な知識を養い鑑賞能力を高める。	小テストなどを取り入れ、表現・鑑賞の理解度を高める。 芸術の真髄に触れさせるために映像等を活用する。	B B		
	芸術がわかる喜びを実感する授業に努める。	授業内容・方法等について教科内で授業改善に努める。 各種研究会、発表会に参加し自己研鑽に努める。	C B		
	基礎学力の向上に努める。また上位者には応用力を付けさせる。	小テストなどを通して、基礎的な内容の定着を図る。 小テスト・定期テストの結果を参考にして、不十分な生徒には補習を実施する。 自主学習を勧め、家庭学習の定着を図る。	B A C		
英 語	資格取得を目指す積極性を養う。	進学を目指す生徒に、進学課外を通じて応用力を付けさせる。 英検資格取特のため、進学クラスを中心に、英検の問題を取り入れた授業を展開する。	B B	B	それぞれの授業にプリントを準備して、生徒がより集中しやすく、理解しやすい授業を展開することが出来たが、基礎学力は、まだ定着しているとは言えないのが現状である。
	英語が分かる喜びを実感する授業の改善に努める。	生徒の能力に応じた教材作成に努める。 各種研修会に積極的に参加し、教科内で発表すると共に自己研鑽に努める。 ALTを積極的に活用し、生徒が積極的にコミュニケーションをする態度を養う。	A B B		
	多方面からの評価に努める。	定期テストだけでなく、提出物や授業態度等多方面からの評価に努める。 より良い評価方法を目指し、教科内で話し合いを十分に持つ。	A B		
	基礎的な知識の定着をはかる。	プリント学習、調べ学習を適切に取り入れ基礎的知識の定着をはかる。	B		
家 庭	技術の向上を図る。	調理実習や被服製作を通して、基礎的な技術を身につけさせるとともに、学んだことを家庭生活に生かしていこうとする態度を育てる。	B	B	実習により、生徒の技術を向上させることができた。今後は教材を工夫し生徒の知識の定着にも力を入れたい。
	生きる力の育成に努める。	ホームプロジェクトを通して家庭での問題解決の力を養う。	B		
情 報	基本的な技能の育成を図る。	ワープロ、表計算、インターネットなど、多くのソフトを活用する。	C	B	基本操作や検定合格は出来たが、多くのソフトの活用や、情報の活用、判断などの発展的学習ができなかった。
	資格取得の奨励。	ワープロ検定（11月）、スピード検定（2月）の資格取得に向けて指導をする。	A		
商 業	情報の有用性を理解させる。	情報を処理した結果を検討、判断させる能力を身に付けさせる。	B	B	資格の取得の数を増やしたい。表計算の基本的処理の習熟はできたが、書類の作成能力まではできなかった。
	情報機器の基本操作を習熟させる。	コンピュータの基本操作と、キーボード操作の習熟を目指す。	A		
	情報処理能力を高める。	基本的処理（合計、平均、ランク、グラフ、印刷）を含めた、書類の作成能力を育成する。	B		
教	資格取得の奨励に努める。	各自の能力に応じて資格取得を目指す。	B	A	新学習指導要領に基づき実態に即した教育課程の編成に努める。 教科間を超えた公開
	授業時間の確保に努め、また生徒の欠課時数の把握に努める。	授業時間の連絡を早めに行い、学年間・教科間の連絡を密にし、自習時間を極力減らすようにする。 生徒の欠課時数については共通の連絡表の作成で、より教科担任・担任・保護者間の連絡を密にする。	A A		

務	多様な生徒に対応した教育課程の編成と運営に努める。	生徒の実態に応じた教育課程編成のための話し合いを行う。	B	B	授業によって、指導方法及び生徒の実態の共有化を一層図る。学習習慣の確立のために何が必要かをさらに検討する。拡大学年會の実施で情報の共有化を図るとともに生徒の実態把握に努める。問題点や改善すべき点が出てきたらできるだけすぐに対応できる体制づくりをする。	
		年間指導計画の作成により、評価と一体化した学習指導がはかれるようにする。	B			
		校内における研究授業や対外的な公開授業の実施で、学習指導の力量を高めたり、学習指導の改善に対するきっかけとする。	A			
		各種研修会における情報を教職員間で共有し、研修会等の実施を推進する。	B			
		教科内における教材の共有化や効果的な副教材の選択を行い、学習意欲の向上に努める。	B			
		学習習慣の確立をはかるために、宿題や小テストを効率的に活用する。	C			
		生徒の能力に応じた適切な指導の改善を図り、習熟度やT T等の活用を積極的に取り入れる。	A			
		個別面談や学年會、拡大学年會等により生徒の実態把握を行い、改善のための方策を検討する。	C			
		教科・学年との連携を図り、定期的な補習授業などを計画的に実施する。	B			
		追考査の実施や追認考査について、各教科・各学年との話し合いを行う。	B			
進路指導	成績不振者に対する状況の把握や適切な指導を行う。	定期考査における成績処理の効率化と適正化を図る。	B	B	インターンシップの参加者が少なかった。実施学年を含めて再検討の必要がある。就職状況の悪化に対応するための指導体制を確立する必要がある。	
		指導要録記入の見本を作成し、調査書と合わせ作成の効率化と適正化を図る。	B			
		学年と連携をとりながら全体計画の作成に努め、進路指導の充実を図る。	B			
		「進路の手引き」を作成し、各学年に対応した利用計画を立てる。	C			
		進路講演会、大学の模擬授業、卒業生による講話等を実施し進路意識を高める。	A			
		進学希望者に対して内容を充実させた課外、学習セミナーを計画し学力を高める。	B			
		毎月「進路だより」を発行し、進路情報の提供に努める。	A			
		常識テストを実施し、1学年から進路意識を高める機会を増やす。	B			
		多くの企業を訪問し、就職の選択肢を増やす。	B			
		大学・短大等の説明会に積極的に参加し情報を得る。	B			
特別活動	学校行事、委員会活動を通して帰属意識、協調性、責任感を養う。	多様な生徒の実態に対応出来るように、就職進学についての職員研修を実施する。	C	B	・生徒の部活動への参加率を上げる。 ・部活動の精選。 ・3カ年を見通した学校行事の計画。	
		全員参加による学校行事を展開し、行事の意義を理解させる。	B			
		各種委員会の活動の充実に努める。	B			
		歩く会、クラスマッチ、芸術鑑賞会への積極的な参加を通して、成就感、達成感を体験させ、連帯感を養う。	A			
生徒指導	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	生徒の実態に合わせて、自発的活動ができるように、顧問による適切な指導や助言を行う。	C	B	挨拶・声かけ運動を推進する。頭髪服装指導の継続的指導。事故の未然防止に向けての指導。	
		活動を通して、生徒の心身の健康の向上に努める。	B			
		マナーとモラルの向上を目指す。	生徒指導の強化週間を設けて校内巡視を計画し、問題行動の未然防止に努める。			B
		基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実に努める。	B			
		禁煙教育と薬物乱用防止教育の充実に努める。	C			
		遅刻カードを利用した遅刻防止策を励行し、常習の生徒には特別指導を実施することで改善を図る。	C			
図書	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実に努める。	規範意識の確立や服装・頭髪の適正化を目指し、全校集会・学年集会・HR等で周知徹底を図る。	B	B	図書利用の活性化を図る。	
		生徒指導の強化期間を設け、服装・頭髪・遅刻等の指導に全職員で対応する。	A			
		喫煙防止講演会を開催し、禁煙教育の充実に努める。	B			
		VTRやCD-ROM等の教材を授業やHR等で積極的に活用し、薬物乱用防止教育の徹底を図る。	C			
書	読書意欲を向上させる。	毎日開館し、生徒の読書環境に配慮して、図書館の美化と整備、図書の充実化に努める。	A	B	図書利用の増加。室内装飾や環境整備などの図書委員活動の活性化。	
		委員会活動を推進し、「図書館便り」発行や新着本の掲示などの広報活動に努める。	B			
		感想文・感想画の校内コンクールを実施し、優秀作品を県のコンクールに出展する。	A			
保	学校生活不適応・特別支	読書會や国語科と連携した読書指導を通して、優れた図書に触れさせ、人生や生きることの意義について考えさせる。	B	B	清掃指導が徹底できなかった。環境美化委員の活動を活発化し、	
		自然や環境に配慮し、ゴミの分別を徹底させる。週に一度ゴミ拾いを実施する。	C			
		清掃指導を徹底し、快適な学習環境を整える。また、環境美化委員が清掃状況の点検を行う。	C			
保	学校生活不適応・特別支	カウンセリングの定期的実施により問題を抱えている生徒や支援を要する生徒の学校生活へ	B	B		

健 厚 生	援を要する生徒に対する情報交換と支援を充実させる。 健康に関する意識の向上を図る。	の適応を図る。また、学年との情報交換を定期的に行い、支援の充実を図る。		A	美化につながるよう検討していく必要がある。特別支援教育に関する研修会を開き職員の共通理解を図る。
		職員を対象に教育相談の校内研修を実施し、支援態勢づくりを計画する。			
		生徒が自ら、自己の健康状態を正しく把握し、その維持向上を図れるよう指導助言する。	B		
涉 外	P T A活動の活性化を図る。	P T A役員と学校との連絡を密にする。	A	A	役員改選の円滑化を図る。 創立60周年記念行事への参加協力の強化
		P T A総会および春季支部総会等、P T A関連行事の活性化を図るとともに、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。	A		
第 一 学 年	基本的生活習慣を養う。	立哨指導と遅刻カード活用の徹底を通して、規則正しい生活リズムを培わせる。	C	B	生徒指導に時間を取られ、授業や学校行事に前向きな生徒を伸ばすことが出来ていない。 基本的生活習慣の確立を徹底する必要がある。 また、学習の目標を明確化し意欲を高めたい。
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、校則を遵守する態度を育成する。	B		
		生徒との面談や定期的なアンケート等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	B		
		問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	B		
	基礎学力の向上に努める。	予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取り組みができる態度を育成する。	C		
		小テストを活用し、家庭学習に取り組む態度を育成する。	B		
		成績が低下した生徒に関しては、生活全般との関わりも含め、家庭との連絡を密にする。	B		
		成績が不振の生徒に対し、授業の内容を補填するための課外を実施する。	B		
	個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	個々の能力や適性を把握し、高い学力を必要とする生徒には少人数の課外と個別の学習指導・進路指導を行う。	B		
		校外模試や各種検定試験を積極的に取り入れ、進路目標を具体化する。	B		
		日常の学校生活を通じて、基本的生活習慣や規範意識の確立に努める。	B		
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B		
第 二 学 年	基本的生活習慣を養う。	生徒の観察や相談連絡等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	A	B	希望進路の100%の実現を目指す。 そのための方策として、基本的生活習慣の確立、基礎学力の定着、学力の向上をはかる。 また、生徒個々に応じた進路指導を充実させ、意欲や知識の向上を図る。
		個別面談等を実施し、問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	A		
		予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取り組みができる態度を育成する。	C		
		各種セミナー・検定試験に積極的に参加し、より高い学力の習得を目指させる。	B		
	基礎学力の向上に努める。	小テストや実力テストを活用し、学力を定着させ、幅広い知識・教養を身につけさせる。	C		
		成績に関する問題点に対して、家庭との連絡を密にする。	A		
		生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	B		
		総合的な学習の時間を利用し、進路について深く学ばせる。	B		
	能力や適性を把握し、個々の進路希望に対応した学力の養成に努めるさせる。	進路別課外・小論文指導・進路ガイダンス等を通じて、進路意識と学習意欲を高める。	B		
		進学希望者には、校外模試への参加を積極的に促し、的確な自己評価を踏まえ目標を持たせる。	A		
		就職希望者には、個々の適性にあった目的を持たせ、日々の生活や部活動を通して心身の充実を図る。	C		
第 三 学 年	基本的生活習慣を養う。	卒業学年としての自覚を持たせ、基本的生活習慣の確立に努める。	B	B	学年後半になると学習意欲が著しく低下した。学年ばかりでなく、学校全体で対策が必要である。 4月の時点でクラスに緊張感が欠けていた。3年次でのクラス替えを検討してもいいのではないか。 寒くなるにつれ服装
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B		
		問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	A		
	学習について主体的に取り組む態度を育成する。	小テストの実施により、基礎学力の向上に努めるとともに主体的な学習態度を育成する。	C		
		英語検定、漢字検定、コンピュータ検定等の資格取得を奨励する。	B		
		進路指導の研修に努め、生徒の実態や進路希望に即した学習計画を立てる。	B		
	進路希望の実現に努める。	実力養成課外、小論文指導、進路ガイダンス等を通じて、生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	A		
		総合学習やLHRでの進路別学習を通して進路意識を高め、生徒一人一人の目標を達成できるように努める。	A		
		オープンキャンパスや学校説明会、職場見学に積極的に参加させ、実現のために役立たせ			

		る。	B	が乱れた。冬服の着用前に全学年統一した打ち合わせを、今後、十分にすることが必要がある。
--	--	----	---	---